
揺らく

千葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

揺らぐ

【Nコード】

N9920N

【作者名】

千葉

【あらすじ】

7月22日

薄ぼんやりとした雲の向こうに見えた欠けた太陽の記憶とともに僕は、

永劫に消えることのない傷を負ったのだった

僕たちは今も深い悲しみの中に居る

「死んだんだって。」

静かに告げられた声に俺は何も返さなかった。そのことならとっくに知っていた。

だから俺は、二日前から眠っていない。

「今まで、誰が死んだって人事だった。でも今回は、違う。」

彼は言葉を続けた。それはきつと独り言だった。

俺に向けた言葉でも、誰に向けた言葉でもなかった。

「不思議だ。思い出す日なんて少ししかなかったのに。死んだというのを聞いてから、益々好きになった。」

彼の言葉は俺の言葉でもあった。それは恐らく、多くの人々の言葉だった。

長く降り続いた雨がようやく止み、太陽が輝いている。

しかし吹き抜ける風はどこか冷たいような気がした。俺の五感はどこかおかしくなっていた。

「いつか、会える日が来るだろうか。」

「…急ぐ必要は無いよ。」

彼の独白に、俺は言葉を返した。

彼はきつと答えなど求めていなかったと思うが、俺はそう言った。

少し、彼が笑った気がした。

それは、青空に浮かぶ雲の美しさに対してだったのかも知れない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9920n/>

揺らく

2010年10月9日18時50分発行